

1年生の教科書 ↓ P157

古典の言葉

古典の文章には、現代の文章と異なる言葉遣いが見られる。時代とともに、日本語も変化してきたのである。古典語（文語）と現代語（口語）にはどのような違いがあるだろうか。仮名遣いの変化や言葉遣いの変化について考えよう。

仮名遣いと発音
古典の仮名遣い 現代の仮名遣い

- ・ つかたまはりて → うけたまわりて
- ・ 使ひけり → 使いけり
- ・ いしちのありけり → いしちのありけり
- ・ 伝へたる → 伝えたる
- ・ 天人のよきほひ → 天人のよきほひ

― 語を付けた「は・ひ・し・く・ほ」について、古くはその仮名とり発音されていた。それが平安時代中ごろから、語頭以外の入行の音が「ひ・キ・ウ・エ・ヲ」の音に變化した。さらに「ひ」以外の音が、ア行の音と同じになった。

古典の仮名遣いは、平安時代中ごろ以前の表記を基準にしたもので、「歴史的仮名遣い」とよばれる。

意味が変化した言葉 古典語だけに使われる言葉

- ・ かなし → 現代では、「泣きだくなるほろろい」という意味で使われる言葉には、形は現代語と同じでも、主に使われる意味が現代では変わってしまっただけのものや、言葉そのものが現代では使われなくなっただけのものがある。
- ・ 意味が変化した言葉 古典語だけに使われる言葉
- ・ 古く使われる言葉には、形は現代語と同じでも、主に使われる意味が現代では変わってしまっただけのものや、言葉そのものが現代では使われなくなっただけのものがある。

意味が変化した言葉 古典語だけに使われる言葉

- ・ うるのなくやま → ついのなくやま
- ・ けふこえて → きふこえて
- ・ ぬひもせず → えひもせず
- ・ よろづのいとし → よろづのいとし
- ・ せむぎやうなし → せむぎやうなし

意味が変化した言葉 古典語だけに使われる言葉

- ・ かなし → 現代では、「泣きだくなるほろろい」という意味で使われる言葉には、形は現代語と同じでも、主に使われる意味が現代では変わってしまっただけのものや、言葉そのものが現代では使われなくなっただけのものがある。

意味が変化した言葉 古典語だけに使われる言葉

- ・ かなし → 現代では、「泣きだくなるほろろい」という意味で使われる言葉には、形は現代語と同じでも、主に使われる意味が現代では変わってしまっただけのものや、言葉そのものが現代では使われなくなっただけのものがある。

● 歴史的仮名遣いの復習をしましょう。裏面に、問題もあります。丸つけまでやりましょう。
＊ 1年生の時に使っていた、教科書やノートを活用しましょう。

★覚えておこう② 「枕草子」は「三大随筆」のうちの1つ。残りの二つもセットで覚えておこう。

★覚えておこう① 清少納言と、同時代に活躍した「源氏物語」の作者は・・・
() 【便覧 P63 参照】

「枕草子」
作者は ()。文学的なジャンルは ()。内容は、作者が宮仕えをしていた頃に () や () などを書き記したものの ()。

● 【作品の特徴】教科書 P.33 「出典」を参考に、() を埋めましょう。

◎ 作品の特徴をおさえ、歴史的仮名遣いの復習をしよう。

【言語】

【単元の目標】

作者の四季に対するものの見方や感じ方に触れ、自分の感じる趣と比べてみよう。

枕草子① 教科書 P.32～ (便覧も使います)

() 枕草子 () 清少納言 ()
() () ()
() () ()
() () ()

人試でも
出てくるかも...?

復習問題 歴史的仮名遣い . (ページの最後にある解答をもとに丸つけすること)

◎歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで () に書きましよう。

★本文に出てくることは

① やうやう () ようよう

() ② 山ぎは ()

()

③ なほ ()

() ④ 飛びちがひたる ()

()

⑤ をかし ()

() ⑥ ちかう ()

()

⑦ 言ふべき ()

()

★チャレンジ問題

① うつくしゅう ()

() ② けふ ()

()

③ まつす ()

() ④ なむ ()

()

⑤ よそほひ ()

() ⑥ てふてふ ()

()

⑦ れていーぐわぐわ ()

()

正解数

/7

正解数

/7

解答

★本文に出てくることは

② やまぎわ ③ なお ④ とびちがひたる ⑤ おかし ⑥ ちこう ⑦ うつくし

★チャレンジ問題

① うつくしゅう ② きよう ③ もつす ④ なん ⑤ よそほひ ⑥ ちようちよう

⑦ れていーがが

◎古典語(文語)の意味に注意し、枕草子「第一段」の内容をよめよう。

【読む・言語】

【ポイント】

①枕草子「第一段」では、清少納言が、春・夏・秋・冬、それぞれの季節について感じた趣があるもの(興味深くひかれるもの)について述べている。

②「をかし」＝ 趣がある 興味深い 心がひかれる 風情がある すばらしい 豪敵だ おもしろい

●教科書下段を参考に、() に現代語訳を入れよう。

春はあけぼの。 やつやう 白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雪のほそくたなびきたる。
() () (ただよっている)

夏は夜。月のころは、さるなり、 闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、
() ()

ほのかにうち光りて行くもをかし。 雨など降るもをかし。
() ()

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと 近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、
() ()

みよ 三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐあはれなり。 まいて雁などのつらねたるが、
() ()

いと小さく見ゆるはいとをかし。 日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。
() ()

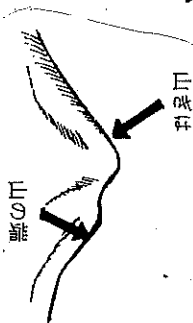
冬はつとめて。 雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさうでないと寒きに、
() ()

火などいそぎおこして、炭もて渡るもいとつきつきし。 昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、
(つさわしう)

火桶の火も白き灰がち になりてわろし。
(灰) () ()

●清少納言がそれぞれの季節にふさわしいものとして挙げているものを確認しよう。

【裏面にうつく】



●清少納言がそれぞれの季節にふさわしいものとして挙げているものを確認しよう。

【ヒント】

本文には、「をかし」と書かれている箇所もあれば、「をかし」が省略されている箇所もある。
そのため、現代語訳を確認しながら読み進めよう

季節	春	夏	秋	冬
ふさわしいもの、趣がるもの＝「をかし」なもの		夜。月が出ている頃。（月が出ていない）闇。螢が多く飛んでいる様子。ほんの１、二匹がほのかに光って飛んでいく様子。雨の日。		

●音読をしましょう。古典のリズムを感じながら、暗唱できるくらいまで何度も読めるといいですね。
授業が始まったら「暗唱テスト」をやる予定しています。コジコジ練習しておきましょう。

◎自分の季節の感想や感じ方などを文章にあらわそう。

●自分流「枕草子」を書こう。
[書くこと]

【補足】便覧P.64～69を参考に。

枕草子は、教科書にある「第一段」のように「春は……」「夏は……」「と自分ならではの季節感について書いた章段だけではない。
便覧にも書いてあるように「ものづくし」という章段がある。これは、自然や人に関するものをジャンルごとに説明している。

(例)「つくしきもの」(かわいらしいもの・第一四四段) 「にくきもの」(にくらしいもの・第二五段)

【流れ】*次のプリントの、曾田先生・高橋先生の〈例〉を参考にしよう。

① 「春夏秋冬」パターン か 「ものづくし」パターン を選ぶ。

「春夏秋冬」パターンで自分流「枕草子」を書く人

自分が思う四季それぞれの好きなものや代表するものを、「春は……」「夏は……」「のよう」のように書き出していきます。その際、理由も一緒に書けると良いです。清少納言のように、「わろし」なものを付け加えても面白いかもしれません。

「ものづくし」パターンで自分流「枕草子」を書く人

一つのテーマを決めて、それに合うもの、自分がそうだと思うものを書き出していきます。(三つ～五つほど書けると良いです。)その際、理由や一言コメントも一緒に書けると良いです。

★テーマの例……好きなもの、嫌いなもの、恥ずかしいもの、笑ってしまうもの、悲しいもの、

すばらしいもの、イライラするもの、心が温まるもの、痛いもの、焦るもの……など

② 原稿用紙にいきなり書かずに、メモ欄を使うなどして構想を練りましょう。

③ 四〇〇字詰め原稿用紙に〈例〉を参考にタイトル、名前を書いて、自分流「枕草子」を書き始めましょう。

④ 書き終わったら、誤字脱字がないか、さらに良くなる表現はないか、見直しをしましょう。

【メモ欄】

原稿用紙

ゝ 自分流 「枕草子」

ゝ

20 × 20

例

20 × 20

400字以内”

例

⑥ 7 9 5 2 3 1 4 6 8

[illegible]

20 × 20